

オペラ「かぐや姫」ロサンゼルス公演《米国初演》批評記事
～『ハンナ』（2015年11月号）～

Intermezzo ♪ 間奏曲

世界に飛び立つオペラ『かぐや姫』

8月22日、ロサンゼルスのアラタニ劇場でアメリカ初演となった平井秀明作曲・台本のオペラ「かぐや姫」（配役 かぐや姫：高橋薫子、帝：三浦克次、翁：立花俊弘、媼：諸田広美）。日本語による上演は聴衆を昔話の世界に惹き付け、日本語と西洋音楽の融合を美しく実現させた。1992年2月、当時まだイーストマン音楽院の学生だった平井秀明が一晩で作曲したのが、かぐや姫が月へと旅立つシーンを歌う「別れのアリア」。10年あまりの構想の後、全2幕のオペラとしてパイオニア合唱団の演奏により2003年東京で世界初演。その後プラハ、ザルツブルグ、キャンベルなど、世界各地で30回以上上演されることとなる。作曲、台本、指揮、演出の4役を務めた平井は「オペラ『かぐや姫』の最初の曲が誕生したのはアメリカで、私のアメリカ時代がすべて刻み込まれた音日記であり、今回の公演は感無量」と言う。日本が世界に誇る和歌を



10首ほど作品に取り入れ、児童、母子、成人合唱団として3世代が参加できる「市民参加型」にするなど、意欲的な取組みもある。

日本人の誰もが子どもの頃から知っている昔話だったが、これからのかぐや姫は月だけでなく、世界中に飛び立つに違いない。